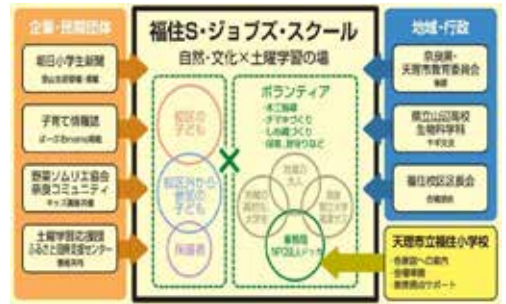


子供の感性を育む体験型の土曜スクール

奈良県天理市	● 活動名	● 関係する学校名
	福住S・ジョブズ・スクール	天理市立福住小学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	43 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 5 人	連携団体・企業等	朝日学生新聞社
ボランティアの数	登録人数 15 人	属性	大学生、元教員		
参考 URL	http://yama-too.blogspot.jp				

● 体制図



● 連絡先 天理市立福住小学校 ☎ 0743-69-2104

● 活動の概要・経緯
地域の過疎化が進んだことに危機感が増す中、旧福住幼稚園舎を利用し、平成 26 年から子育て支援活動が始まった。ボランティアが、4年生の総合学習「森たんけん」に協力するようになり、地域コーディネーターが立ち上げた NPO 法人「日本無形文化継承機構」と学校が小学校土曜スクールへの移行を計画、里山の自然・文化を楽しみながら学習する当活動を開講するに至った。社会的な態度や能力を養う地域学習・福住に通いたくなる教育環境づくり・学校という場を核にした地域創生をねらいとし、事務局は NPO 法人に置き、参加者募集や教育的サポートを小学校教職員が協力している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

里山環境を生かし、子供たちをホタル観察会、森のリースづくり、神社の献氷祭、寺の花まつりなど地域行事へ参加させた。また、民間の伝承行事「おつきようか」の復活（お月八日…ツツジ類の花を竹竿につけて月に供することで豊作を祈ったりする、山間地域に伝わるまじない）、干し柿づくりなど豊かな歳事を、子供たちや若い保護者と高齢者との交流を通じて行い伝承することで、地域への愛着を育もうと取り組んでいる。地域の高齢者が集う協働サロンを中学校の空き教室に作り、中学生とのふれあひも図りながら、世代を超えて多くの人々が地域の学校へ出向くための工夫をしている。また、自然と文化に恵まれた学習環境を広く紹介するために、学校だけでなく、雑誌、フリーペーパー等に積極的な情報発信を行っている。

【実施にあたっての工夫】

平成 29 年度より天理市の小規模特認校（区域外の児童就学認可）として、天理市内の子供たちの参加も広く受け入れている。また、天理市と包括的連携協定を締結している奈良県立大学、天理大学の学生のフィールドワーク単位活動として地域に学生を受け入れ、共に活動している。

毎回の活動の終わりに、子供は絵日記、大学生はレポートを作成し、それを様々な形態の情報発信に役立てている。また、NPO 代表者は朝日小学生新聞の里山支局の委嘱を受けており、地域の子供のみならず、全国に向けて情報発信をしている。

● 事業を実施しての効果・成果

「行きたいから参加申込みして」と、子供から親に頼むほど、楽しみな活動になっている。保護者からも、「子どもが帰宅してから、今日の楽しかったことを話してくれた」など、高い評価を得ている。この活動の成果を受け、福住小学校は、平成 29 年に小規模特認校に移行し、天理市内の他小学校区から新たに 9 名の転入学児童を受け入れ、複式学級を解消できた。また、普段高齢者とふれあつ機会などあまりない大学生たちが、この活動で多くの話を聞き取ることで、昔から伝わる農業中心の文化的催事に関心をもち、継承に役立つのではないかと期待されている。

● その他

朝日新聞（朝日小学生新聞）の里山支局委嘱・記事掲載
野菜ソムリエ協会奈良コミュニティ（キッズ講座共催）

子育て情報誌（パープル）に記事掲載
土曜学習応援団ふるさと回帰支援センター（情報共有）



旧暦4月8日おつきようか
ツツジの枝と籠を竹竿に付け
天道花を掲げます



伝統野菜「大和三尺きゅうり」を栽培
し奈良漬けつくり

ポイント

「小規模特認校」の特性を生かし、「福住に通いたくなる教育環境づくり」として、地域の魅力と市内全体の資源を活用している点が素晴らしいですね。